

支部総会とサツマイモの植付け

東播支部（支部長 石田真一）は、令和6年5月19日（日）青野原駐屯地広報館ミーティングルームにおいて、支部長以下29名が出席をして令和6年度支部総会を開催した。

総会に先立ち石田支部長よりコロナ禍について、昨年5類に引き下げられ支部の活動が以前の様に実施出来る状況となり、計画通りの活動が実施でき成果を上げることができた。元旦に発生した能登半島沖地震に際し、青野原駐屯地から災害派遣に出発する隊員に早朝の見送りに一部理事役が参加して、慰問品を手渡し激励を行った。また、日本を取り巻く厳しい国際情勢に対して、真摯に訓練に取り組んでいる隊員に対し、支部としてどれだけサポートができるのか、家族会が行う家族支援業務は隊友会にも任務を与えられると聞いている。その対応については、支部と駐屯地業務隊厚生科との連携を進める年と捉えていると挨拶があり、毎年の合言葉ではないが、「国民と自衛隊の架け橋」としての一助を担える支援活動の推進を要望された。

総会は、物故者に対する黙とうを行い、その後支部長が議長となり、令和5年度の活動報告、会計報告・監査報告を行い、令和6年度の活動計画、予算案の審議を済々と進めて会議を終了した。

挨拶される石田支部長



本年度の支部長表彰として、空中理事役、上甲理事役が表彰された。

総会終了後、無償借用している滝野体育センター近隣の休耕田に移動して、秋のサツマイモ収穫のために400本の苗の植付け作業を行なった。

今年は、石田支部長以下17名で1週間前の5月11日(土)朝9時からサツマイモの畝の整備、イノシシ除けの柵の作成等を行った。作業負担を少なくする対策により作業は2時間弱の短い時間で円滑に進み、収穫時期の10月に大きく育ったサツマイモの収穫行事を隊員及び隊員家族とともに和気藹藹と実施できることを祈りつつ作業を終了した。

マルチかけ奮闘中



マルチかけ終了後の集合写真



植付け中の会員の皆様



植付け終了後の集合写真

